

盛岡と九州・福岡を結ぶ梅 街角にひっそりと咲く

何気ない盛岡の街角
 普段見慣れた風景でも
 隠れた物語があったりする
 この梅もまた
 そのひとつ



学問の神として親しまれている天神さま・菅原道真公。全国各地にある天満宮は菅原道真公を祭神とする神社です。その道真公が愛した花が『梅』。「三天神」のひとつである「太宰府天満宮」には、全国各地から「猷梅」された約200種6000本の梅があるといわれます。その中のひとつ「天神梅(てんじんばい)」は、種にかじったようなくぼみがあることから、別名「天神のかじり梅」と呼ばれる希少種です。

盛岡市の保存樹木であるこの「天神のかじり梅」は、盛岡天満宮にもある「かじり梅」の親木で、藩政時代に南部藩士が参勤交代で親しくなった黒田藩の武士から譲り受けた梅の種が根付いたものと言われています。その後、太宰府天満宮ではこの梅が無くなっていったことから、国の天然記念物シダレカツラの接ぎ木で有名な阿部善吉氏が苗木を送り、「天神のかじり梅」は長い年月を経て福岡の地に里帰りし、以来大切に育てられています。

